

県民文化祭の案内

恒例の秋のイベントは「徳島の歴史的建造物の魅力」

■ 令和元年10月13日(日)、14日(月) ■ 徳島県立文学書道館1Fギャラリー

第21回徳島県民文化祭分野別フェスティバルは、徳島県内の歴史的建造物を取り上げます。

○パネル展 (13日10時～14日16時)

徳島県内に点在する歴史的建造物の中から、現地に赴くことができ、取材や写真撮影が許された50カ所を写真と文章によって紹介します。

会員の撮影した写真は、プロのカメラマンとはひと味もふた味も違った味わい深いパネルに仕上がっています。会場へ足をお運び頂きまして直にお楽しみください。

○記念講演 (14日午後1時30分)

テーマ 「徳島の建造物の魅力」
講師 森兼 三郎

(徳島市文化財審議会委員)

○特別展示コーナー

切り絵作家 上田優の作品展



次年度県民文化祭参加事業と「徳島ペンクラブ選集 part 38」特集のテーマを募集しています

次年度の事業・特集のテーマを募集しています。特にパネル展示は、写真撮影の期間が必要になりますので早めにテーマ設定をしたいと思えます。現在候補に挙がっているのは「徳島花紀行」「徳島の四季」「徳島道物語」など입니다。斬新で意欲的なアイデアをお寄せください。



昨年の田中富雄展 展示風景



野上彰詩集「前奏曲」
 四六判上製、184頁。
 CD付き 左右社発行
 猪熊弦一郎装画
 生前唯一刊行詩集の復刻



ほんの散歩道
 出版された方は、ご連絡下さい

出水康生さん「戦国天下人
 三好長慶を語る」
 B5判、254頁。
 (株)インダメック
 三好長慶会結成20周年記念誌



おめでとう

「前奏曲」出版祝賀会

徳島県出身の詩人・野上彰を顕彰する詩集の出版記念祝賀会が7月20日、阿波観光ホテルで行われました。野上のご子息5人をはじめ、県内文化関係者110人が出席、実施されました。

「阿波木偶まわし保存会」国立劇場で公演

7月28日、民俗芸能公演「祝福芸」に出演。
 辻本一英さんが解説し、保存会の方たちが三番叟まわし、箱廻し芸を披露し観客の喝采をあびました。

渡辺恵子さん

第10回「あなたのおいしい記憶」エッセーコンクールで読売新聞社賞(主催・読売新聞、中央公論新社)を受賞されました。

会員の短信

坂東正章さん

「坂東ハート奨学金」創設。
 進学の夢をつぶされそうな若い人を援助したい。自分の人生を切り開いていく手伝いがしたいとの思いから創設されました。

エッセー

第一回まちかど朗読会に参加した。主催となる入会したての徳島ペンクラブで執筆実績はななく、共催いただいた二つの朗読サロンに所属しているわけではない。ただ、最高の読み手による最高の作品を味わいたかっただけである。還暦を迎えたばかりの今は文学に注力しているが、三十七年前、渋谷での学生時代はアナウンサーを志し発声訓練に明け暮れた。大学の先輩にNHKの山川静夫や、独特の節回しの小林完吾などがいた。当時日本テレビの採用面接でジャーナリスト櫻井よしこ氏の前で天気予報を読み、この業界に見切りをつけた苦い思い出もある。すでに絶版のNHK新アナウンス読本を教材に、外郎売の早口ことばやニュース原稿読みを経て標準語のアクセントに自分の口を馴らしたことが、今回の朗読で呼び覚

朗読と作品

まされた。

さて朗読会である。選ばれた十七編の作品としての質の高さは言うまでもないが、その朗読技術の高さに心を奪われた。阿波の方言から成る会話文と地の文を音で聞き、その精緻な対峙に十数年離れ疎遠となったこの地の底力を感じた。ゆっくりすぎる読みは、高齢の参加者を思

つてのことだろう。鼻濁音のない土地柄なので、耳に残る「が」や徳島の「く」は地方色や趣と捉えた。「ぜ」が「じえ」になる一部の方はご愛敬である。

当日、頼まれた録音ついでに、全作品と読み手に点数を付けてみた。総合一位は計ったように

「最後の葉っぱ」、随筆大賞の作品である。渡辺さんの造影的で琴線に触れる心情描写に、水田さんの落ち着きの名調子が生きる。最前列なのに祖母と私とナレーション、三人の演者が見えた。声に出すことで作品は動くという。第一回が今なのを感謝したい。(坂井陽)

文学旅行
10月31日(木)

宝塚大劇場と手塚治虫記念館

今年のペンクラブ文学旅行は、秋たけなわの10月31日(木)、比較的近場の兵庫県宝塚市を訪ねる。

宝塚といえば、誰しもタカラジェンヌによるあの豪華絢爛の舞台を思い浮かべるだろう。そう、今回はその宝塚大劇場での観劇と劇場に隣接するアニメ・マンガミュージアムの宝塚市立手塚治虫記念館の二つが目玉企画。

大劇場の公演は月組で、演目は日本一オーストリア友好150周年記念ミュージカル『I AM FROM AUSTRIA - 故郷は甘き調べ -』。なんだか甘いムードのミュージカルが楽しめそう。

手塚治虫記念館は、宝塚市で5〜24歳までを過ごした彼の生涯を称えて1994年に設立された。外観は、ヨーロッパの古城をイメージしてデザインされている。館内では手塚マンガの1ページを再現した空間で、彼の数々の作品を見たり、実際に作品作りの体験もできるといふ。

行程は、徳島駅前ホテルサンルート横を午前8時、阿波交通株の貸切バスで出発。途中、松茂とくとくターミナルに立ち寄り(乗降可)、淡路SAでトイレ休憩(復路も)の後、宝塚大劇場へ直行。午前11時開演の月組公演を観劇(劇場内弁当昼食)。終演のあと、徒歩で手塚治虫記念館へ。同館で1時間ほど見学のあと帰路につく。松茂とくとくターミナル午後6時45分、徳島駅前帰着午後7時ごろの予定。

会費は18,000円(観劇S席・入館料・弁当代含む)。当日バスの中で集金します。参加申し込みは、同封のがきに所定の事項を書き込み、10月18日までに投函してください。先着30人。

お問い合わせは、旅行担当の田上倉平(088・668・3563、携帯電話090・1328・1253)まで。

ペンクラブ選集Part 37 作品提出のお願い

○特集及び一般作品

*特集作品

「徳島の歴史的建造物の魅力」に関連した作品

*一般作品……………特集以外の作品(従来どおり)

○作品原稿

見開き2ページ2000字を基本として偶数ページ

○掲載負担金

見開き2ページ7000円(追加1ページ2000円)

○原稿の締切と送付先

一般作品……………9月30日

特集作品……………10月25日

〒771-1273

板野郡藍住町勝瑞字正喜地九三の一〇 上窪則子宛

電話(携帯) 080・5665・5247

メール norikok@mxinetwave.or.jp

徳島ペンクラブ新入会員募集しています

お知り合いの方で徳島ペンクラブに興味をお持ちの方をご紹介ください。

後記 編集

梅雨明けと同時に猛暑に襲われた日本列島。県内でも多くの熱中症患者が出ました。気候変動の激しくなった昨今、皆様方もご自愛ください。

会員の方々の活躍ぶりが伝えられてきます。刺激を受けて、お互いに文芸活動にますます励みたいものです。